

# 全国学力・学習状況調査の概要

平成29年度全国学力・学習状況調査は、平成28年度に引き続き、全小中学校を対象に実施されたものです。

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することです。調査結果については、あくまでも児童・生徒に対する評価の一側面を示すものであります。したがって、競争や順位づけを目的とするものではありません。児童・生徒の学力の実態や、生活習慣を含めた学習状況、またそれら相互の関連を分析し、教育課題を明確にした上で、教育のあり方及び教育施策の改善を図ってまいります。特に学校現場においては、児童・生徒への指導や学習活動の改善等に役立ててまいります。

藤井寺市教育委員会では、この調査の目的に沿って、本調査に参加いたしました。結果の公表については、保護者・市民の皆様にも、学校教育及び家庭教育についての理解と協力を得ることが何よりも大切であると考え、本市・大阪府・全国を比較する形で、教科・〈A（主に知識）、B（主に活用）〉別の平均正答率、学力の背景にもなっている生活アンケート結果及び今回の調査を分析する中で見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と今後の教育課題についてお示しさせていただきます。

なお、学力調査結果の学校別平均正答率の公表については、序列化や過度な競争につながるおそれがあるため、これまで同様に行わないものとします。

## (1) 調査の実施概要

① 実施日 平成29年4月18日（火）

② 実施学年及び対象者数

対象	藤井寺市		大阪府		全 国	
	学校数	対象者数	学校数	対象者数	学校数	対象者数
小学校6年生	7校	535人	995校	71,298人	19,645校	1,012,581人
中学校3年生	3校	484人	470校	71,889人	9,982校	1,024,189人

③ 実施内容

【小学校】 国語A（知識） 国語B（活用）  
算数A（知識） 算数B（活用）  
質問紙調査（児童質問紙）

【中学校】 国語A（知識） 国語B（活用）  
数学A（知識） 数学B（活用）  
質問紙調査（生徒質問紙）

## 小学校について

※平成29年度より、大阪府・藤井寺市の正答率は整数での表記となっております。

小学校（6年生）【教科・区分別平均正答率】				
教科 区分	国語		算数	
	A	B	A	B
藤井寺市	71%	53%	80%	45%
大阪府	72%	54%	78%	45%
全国	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%

小学校（6年生）【大阪府との平均正答率の差】				
教科 区分	国語		算数	
	A	B	A	B
平成28年度	-1.1	-0.6	1.5	-0.8
平成29年度	-1	-1	2	0

### 国語

- 知識面では、基礎的な「話す・聞く」（66.5%）「読む」（68.6%）に関して、全ての領域で府の平均よりも高い正答率でした。また、無回答率も低い数値（0.2%）でした。  
「ことわざの使い方」（84.1%）で、ことわざの意味理解について定着率が高いです。しかし、言語に関する知識・理解・技能に関して、特に漢字を書くこと（59.2%）については、低い正答率でした。
- 活用面では、「目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す問題」（78.1%）は、高い正答率になっています。しかし、「物語を読み、具体的な叙述を問う問題」（32.5%）や、「自分の考えをまとめる問題」（23.4%）などの記述式の問題は、正答率が低く、無回答率（28.2%）も高いです。

### 算数

- 知識面では、「数と計算」（83.4%）「図形」（86.4%）「数量関係」（80.0%）で、数量や図形についての知識・理解については、高い定着率が見られました。しかし、「量と測定」（69.0%）では、他の領域と比べると定着率は低く課題が見られました。
- 活用面では、「数と計算」（50.9%）、「量と測定」（46.7%）、「図形」（15.7%）、「数量関係」（38.9%）、すべての領域で府と類似した傾向でした。  
「示された考えを基に同じ関係が成り立つかを調べる問題」（83.4%）で正答率が高いです。しかし、「問題に示された二つの数量関係のきまりを記述する問題」（無回答率19.3% 正答率31.8%）では正答率は低く、与えられた情報から根拠を明らかにし、言葉を使って説明することに課題がみられました。

## 中学校について

※平成 29 年度より、大阪府・藤井寺市の正答率は整数での表記となっております。

中学校（3年生）【教科・区分別平均正答率】				
教科 区分	国 語		数 学	
	A	B	A	B
藤井寺市	74%	64%	59%	42%
大阪府	75%	69%	64%	46%
全国	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%

中学校（3年生）【大阪府との平均正答率の差】				
教科 区分	国 語		数 学	
	A	B	A	B
平成28年度	-2.6	-6.3	-6.9	-5.5
平成29年度	-1	-5	-5	-4

### 国 語

○ 知識面では、「語句の意味理解（慣用句除く）」（90.3%）、「漢字を読む」（94.4%）と言語の知識理解の面で力がついています。また、書く領域では、「目的や意図に応じて材料を集め自分の考えをまとめる」（91.3%）と基礎的な書く力はついてきています。しかし、「漢字を書く」（71.0%無解答率14.0%）の正答率が低く、定着に課題があります。

「事象や行為などを表す多様な語句」（28.5%）と場面に応じて意味を考え適した語句を選択することに課題が見られます。

○ 活用面では、「登場人物の様子が具体的に表現されている箇所を選択すること」「スピーチの意図として適切なものを選択すること」は、平均的にできています。しかし、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」（32.0%）、「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す」（46.2%）と、自分の考えを書いたり、相手を意識して話しをしたりする、記述式での回答に課題が見られます。

### 数 学

○ 知識面では、「円柱の体積を求める」（56.1%）、「錯角の意味を理解している」（50.6%）といった図形の問題について、正答率は低いですが全国の平均より高い数値でした。「数と式」の領域における計算問題（64.7%）と「関数」の領域における全般的な問題（51.7%）については、昨年度より正答率が上がっていますが、依然として正答率は低く、式や用語の意味理解が課題となっています。

○ 活用面では、「問題解決の方法を数学的に説明する」（正答率14.6%、無回答率46.2%）、「事柄が成り立つ理由を説明する」（正答率10.5%、無回答率39.0%）など、数学的な表現を用いて説明することや根拠を示して論理的に証明することに課題が見られます。また、こういった記述形式の問題において、無解答率の高さが課題となっています。